

## 首座主教会議コミュニケ

(2022年3月、ランベスパレス)

1. 私たち、アングリカン・コミュニオンの首座主教たちは、カンタベリー大主教であるジャスティン・ウェルビー大主教とキャロライン・ウェルビー夫人の招待により、2022年3月28～31日までロンドンのランベスパレスに集いました。ウェルビー大主教夫妻の温かいおもてなしに感謝します。
2. アングリカン・コミュニオンの首座主教である者たちとしての私たちの第一の召命は、「あなたがたは行って、すべての民を弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」(マタイ 28:19) という主イエスの教会に対する促しに従うことです
3. 今回の会議は、2020年1月にヨルダンで開催された首座主教会議以来、初めての対面での集まりとなりました。その間、2回ほどのオンラインミーティングを行ないましたが、再び顔を合わせて会えることが、いかに素晴らしいことであるかを表明するものです。
4. 世界には新型コロナウイルスの影響が続いている地域もあるため、一部の首座主教は対面で集まれなかったことを大変残念に思います。特にバヌアツとソロモン諸島において、新型コロナウイルスの初めての深刻な状況を経験しているメラネシア管区を気に留めています。メラネシア管区の人々と、パンデミックによって苦しみ、悲しみ続けているすべての人々のために祈ります。
5. 直接参加できなかった首座主教たちも、公式セッションの会議にオンラインで参加できたことを感謝します。全首座主教が安全に集まれる日を待ち望みます。
6. 3人の首座主教が会議に参加しない選択をしたことは残念に思います。彼らの不在は、私たちの省察、審議と交わりの意味を減じさせるものです。私たちは彼らと彼らの祈りに満ちた知恵を失っているのであり、全首座主教が一堂に会する時が来るのを願っています。

7. 今回の首座主教会議の主な目的は、巡礼の心持ちで、キリストにある私たちのアイデンティティについて共に祈り、考えることでした。カンタベリー大主教は、ヨハネによる福音書からリーダーシップについて聖書的に考察し、私たちは、この時代に世界が直面している多くの課題に応えるために、協力して取り組むグローバルなコミュニオンの可能性と力について考察しました。
8. ペテロの手紙一に関する聖書の学びは、今年の7月と8月にカンタベリーで開催されるランベス会議への準備に役立つものでした。ランベス会議のプログラムについてのプレゼンテーションもありました。コロナ禍による制限のために2年間延期されましたが、700人以上のアングリカン・コミュニオンの主教たちが、共に祈り、聖書の学び、交わりと励ましのために、直接に集まることを楽しみにしています。私たちの希望と祈りは、カンタベリーでの時が、アングリカン・コミュニオンが「神の世界のための神の教会」として生きることができるような実りをもたらすことにあります。
9. 私たちがロンドンに集められた時に、世界の多くの人々が混乱の中にあることを意識していました。とりわけ、ロシアのウクライナ侵攻による人道的危機やその他の破滅的な影響に注意を向けました。私たちは、即時の停戦とウクライナからのロシア軍の撤退を求めます。私たちは、世界のさまざまな地域での経験から、紛争がいかに永続的な損害をもたらすかを知っています。戦争が長引けば長引くほど、打ち碎かれた関係を癒し、和解をもたらすための時間を要するのです。
10. また、アフガニスタン、エリトリア、イエメン、シリア、スーダン、マリ、コンゴ、パレスチナ、ミャンマー、バングラデシュ、中米、南スーダンなど世界各地で起きている紛争や、モザンビークでのテロリズムも注視するものです。これらにより、多くの人々が故郷を追われてしまいました。私たちは、世界中の難民、移民、避難民の苦境を、現代の大きな悲劇の一つとして認識しています。平和のために祈り、正義、安全な場、そして和解をもたらすために働くことを、その力を持つ人々に強く求めます。
11. 私たちは、気候変動による災害が深刻化し、世界中の何百万人もの人々に影響を及ぼしていることも認識しています。特にマダガスカルとモザンビークでは、2ヶ月間に4回のサイクロンが発生し、数千人の人々が家を失い、インフラや農作物が破壊される事態に陥っています。環境破壊は、森林やその他の天然資源の搾取の影響を受けている先住民族など、世界で最も弱い立場の人々に影響を及ぼすものです。私たちは、鉱山や伐採によるアマゾンの破壊を終わらせることを強く求めます。

12. 今回の会議では、将来のカンタベリー大主教の選考過程に、アングリカン・コミュニオンがより深く関与するための英国教会からの提案について議論しましたが、大多数の首座主教はその方向性に概ね賛同しました。
13. 集められた私たちは、それぞれの管区や足元の地域で抱えている重荷について語り合い、互いに聴き合うことができました。
14. 私たちは、北アフリカとソマリ半島の 10 カ国に広がるアレクサンドリア聖公会が、アングリカン・コミュニオンのフルメンバーとなったことをあらためて確認するものです。エジプト教区は、同管区の不可欠な構成部分です。私たちはサミー・ファウジー・シェハタ大主教とともに、エジプトにおけるアレクサンドリア聖公会の法的承認を維持するため尽力する同大主教とエジプト教区を支持します。
15. 私たちは、グランド・エチオピア・ダム建設が一方的に決定され、その結果、エジプトやスーダンで水不足が発生する危険性があることを懸念しています。青ナイル川は、それが流れる国々への神からの贈り物であり、それ自体、エチオピア、スーダン、エジプトが持続可能な開発を実現するために協力する根拠となるはずで、3 カ国が青ナイル川の水の公平な配分を確保するために、善意を持って直ちに交渉を再開するよう 3 カ国に訴えます。
16. 私たちはまた、パキスタンにおいて、キリスト者を含む宗教的少数派を不当に標的とする冒とく法が悪用され続けていることに懸念を抱いています。この法律が、悪意のある起訴、殴打、幼い少女の強制改宗や「結婚」の根拠として利用されています。私たちはパキスタン政府に対し、これらの虐待を非合法化するために、法改正を行なうよう訴えます。
17. 私たちは、「フェイクニュース」や虚偽の報道が増加していることを懸念しています。このような行為は民主主義のプロセスに危険な影響を与え、不当な戦争や紛争を擁護するために利用される可能性があります。私たちは、すべての人、特に政治家、運動家、そしてすべてのキリスト者が、「偽りの証言をしてはならない」との主の戒めについて考え、公的な発言をする際にこの戒めを守るよう求めます。

18. 首座主教たちは、コロナ禍と戦争がもたらす生活必需品の価格上昇が、貧しい人々に影響をもたらすことを大変、懸念しています。私たちは世界中で飢餓のレベルが高まっていることを憂慮しています。食べることは人権問題であり、すべての人が確実に食べられるようにすることは、キリスト者の義務でもあります。私たちは、世界中の政府や市民社会組織に対して、すべての人が食料を入手できるよう、食料の安全保障と流通を優先させることを求めます。その必要は緊急を有するものです。飢えている人々が待つことはできないのです。
19. 前回の対面での首座主教会議では、ヨルダンの聖地龔学院を訪問する機会に恵まれ、そこで働くスタッフのみなさんの働きに感銘を受けました。ヨルダンのハシェミット王国やエルサレム及び中東聖公会管区による丁寧なおもてなしに感謝するものです。
20. 私たちは今回、ローマにおいて集まれなかったことを大変残念に思いますが、再び互いにつながり合う機会を与えられたことに感謝し、靈的にも新たにされてロンドンを発ちます。それぞれの教会に戻ろうとするこの時に、すぐに、ランベス会議で兄弟姉妹の主教たちと共に、私たち首座主教も再び集うことができることを知りつつ、帰途に就きます。私たちは、アングリカン・コミュニオンのすべての主教が、この重要な会議に出席することを勧めるものです。
21. アングリカン・コミュニオン・オフィス（ACO）とランベスパレスのスタッフのみなさんが、本会議を実質的に支援してくださったことに感謝します。また、祈りをもって私たちを包んでくださった、聖アンセルム共同体とシュマンヌフ共同体のみなさんにも感謝を申し上げます。
22. 私たちは、主イエス・キリストを通して神から与えられている召命と、恵みの必要性を意識しつつ、それぞれの教会・教区に戻ります。私たちは、キリストに仕える者としてのリーダーシップと、その群れの羊飼いとしての私たち自身の役割について、また、聖ペテロの「あなたがたに委ねられている、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。恥ずべき利得のためにではなく、本心から、そうしなさい」（ペテロ15:2）という励ましの言葉について、深く思いを巡らしました。

2022年3月31日